

【1】 気象衛星ひまわりの役割と今後の気象衛星観測のあり方

～ 2030年と、それ以降の社会で求められるもの ～

- ① 線状降水帯に伴う災害への対応など防災を軸とした社会への貢献
- ② ひまわりのさらなる活用による我が国の生産性向上、国際貢献の推進
- ③ 静止衛星・低軌道衛星・小型衛星の役割分担及び静止衛星による観測の必要性

視点

- 自然災害の防止（水蒸気の観測強化等）
- 社会インフラとしての気象衛星
- 国際的な役割
- 気象庁がなすべきこと（静止気象衛星の継続性）